

第3章 都市づくりの理念と目標

1. 都市づくりの理念

本市は、衣浦港、矢作川や油ヶ淵等に囲まれた、水と緑があふれる都市です。

古くは、海上交通の要衝となる港町として開け、その後、矢作川沿岸の農地開発や醸造、窯業、鋳物等の伝統的産業によって発展を続けてきました。

市制施行後は、自動車産業等の発展に伴い、工業化が進むとともに、1957（昭和32）年には衣浦港が重要港湾^(*)の指定を受け、広域の活力を牽引する近代的な港を目指し、大規模な臨海用地の造成、港湾施設の整備が進められてきました。

その一方で、南北朝・室町時代から港町として開けた大浜地区は、社寺等の歴史・文化施設が多く集積するなかに、味淋等の特産品を製造する工場等の蔵があり、本市の歴史を感じさせる街並みが現在も残っています。

また、近年、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されており、2011（平成23）年に発生した東日本大震災の教訓を活かした防災性の強化が求められています。加えて、超高齢社会への対応や環境問題等への対応が必要になっています。

このように市民の安全と都市の活力や魅力の維持・向上が必要となるなかで、今後の本市の都市づくりにおいては、移住・定住の促進と産業活動の活性化を図るとともに、衣浦港の魅力を活かした、生産、物流、賑わい拠点の形成を目指します。また、都市の魅力である恵まれた自然環境や景観を保全しつつ、自然・文化と調和し、だれもが便利で快適に暮らせる都市づくりを推進します。

さらに、超高齢社会や障害者に配慮した安全で快適な都市環境の形成を目指し、若者世代の定住促進による多世代交流の推進と活気ある都市づくりを推進するとともに、大規模災害に備え、だれもが安全に安心して暮らせる都市づくりを推進します。

これらを行政だけではなく、市民・事業者等が協働し、いきいきと暮らせるまちを形成していくことを都市づくりの理念とします。

将来都市像

**水と緑に恵まれ 暮らしと産業が調和した
活力ある港湾都市・碧南**

2. 都市づくりの目標

目標① だれもが暮らしやすい居住環境を備えた都市づくり

- 旧市街地等における狭あい道路^(*)の解消やオープンスペース^(*)の確保等の市街地再編
- 都市拠点の連携を図るための都市計画道路^(*)の整備
- 名鉄三河線、ふれんどバス等の公共交通機関の充実
- 駅前広場、駅前通りの整備による公共交通機関の利便性の向上
- 土地利用状況にあった用途地域^(*)への転換
- 公共交通の利用促進等総合的な交通体系の確立
- 地域拠点エリア、中心核及びサブ核における集約型の都市づくり^(*)

目標② 広域交流を促進する都市づくり

- 衣浦豊田道路、名浜道路、矢作川堤防リフレッシュ道路等の整備による、広域のアクセス利便性の強化
- 県営油ヶ淵水辺公園、臨海部の緑地等の広域交流拠点の整備
- 伝統的な産業が創出する特色ある産業の維持・向上による産業観光の促進

目標③ 自然と文化を活かした都市づくり

- 矢作川や衣浦港等の水環境の保全・活用
- 歴史と文化、自然を活かした景観形成
- 良好な都市環境の形成に必要な都市緑化の充実

目標④ 産業活性を促進する都市づくり

- 駅周辺や幹線道路沿道での商業の活性化
- 住工混在の解消のための新たな工業用地の整備
- 広域道路を活かした新たな産業拠点の整備
- 都市近郊の農業の保全と発展
- 三河地域の漁業の拠点として関連施設の充実
- 衣浦港の物流強化として、外港地区への新たなふ頭整備

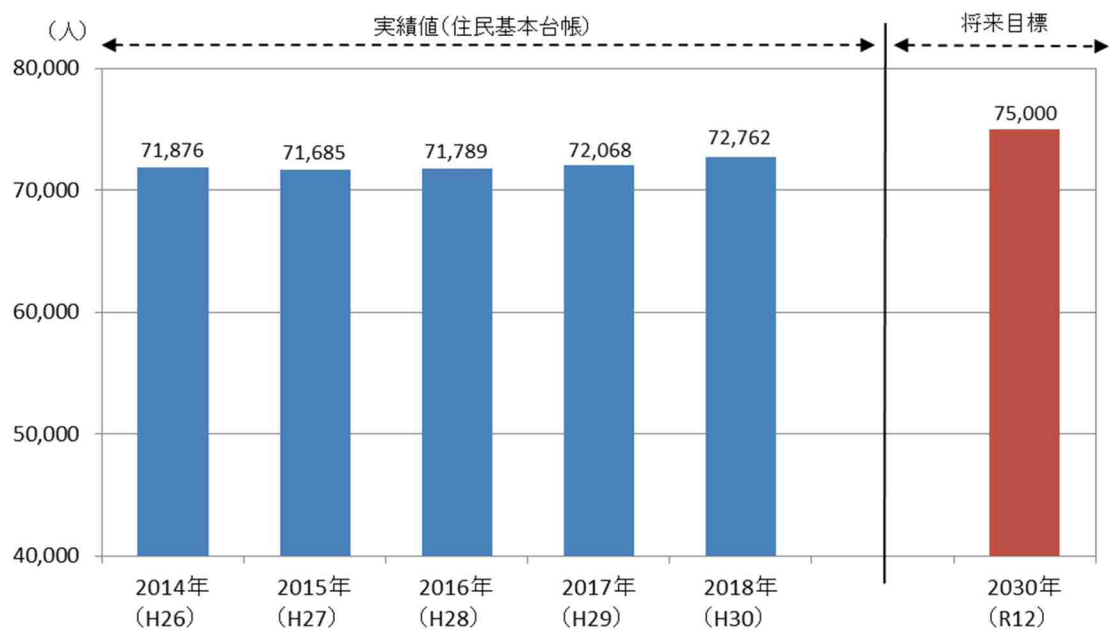
目標⑤ 安全・安心に暮らせる人にやさしい都市づくり

- 公共施設や駅周辺におけるユニバーサルデザイン^(*)の推進
- 高齢者や障害者等に配慮した歩いて暮らせる都市づくり
- 公共施設等の老朽化、耐震対策の推進
- 建築物の耐震化や安全な道路整備による災害に強い都市づくり
- 台風や都市型集中豪雨に対する雨水排水対策
- 地震津波被害想定を踏まえた避難施設の拡充

3. 将来フレーム^(*)の設定

(1) 人口フレーム^(*)

2030（令和12）年における本市の人口は、2015（平成27）年以降の人口増加の実績を踏まえて見込まれる将来人口に、企業誘致に伴う新規従業者の受け皿として住宅・宅地を供給することにより期待される世帯の転入分を加味して75,000人を目標とします。



出典：住民基本台帳（各年3月末現在）

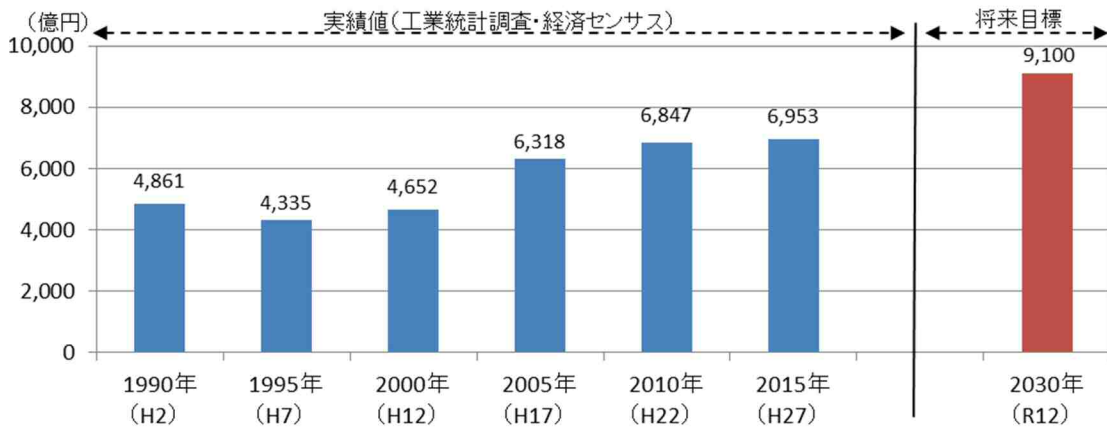
図3-1 人口の推移と将来目標

2030（令和12）年の人口フレーム^(*) 75,000人

(2) 産業フレーム^(*)

1) 製造品出荷額等

2030（令和12）年における製造品出荷額等（従業者30人以上の事業所）は、1990（平成2）年以降の実績値を用いたトレンド推計^(*)の結果をもとに、9,100億円を目標とします。

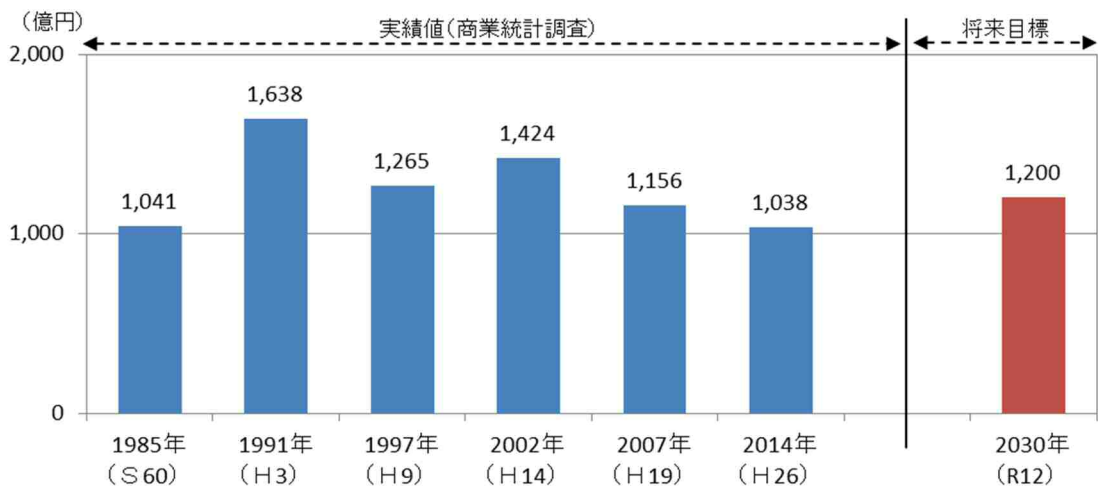


出典：工業統計調査、経済センサス

図3-2 製造品出荷額等の推移と将来目標（従業者30人以上の事業所）

2) 年間商品販売額

2030（令和12）年における年間商品販売額（卸売業+小売業）は、碧南市都市計画マスタープラン（平成22年3月策定）の将来目標を維持し、1,200億円を目標とします。



出典：値は商業統計調査

図3-3 年間商品販売額の推移と将来目標

2030（令和12）年の産業フレーム ^(*)	製造品出荷額等	9,100億円
	年間商品販売額	1,200億円

4. 将来の都市構造

(1) 広域的な交流軸の形成

広域交流軸

将来整備される地域高規格道路^(*)の名浜道路、衣浦豊田道路及び西三河都市計画区域^(*)の区域拠点である岡崎市と連絡する(都)^{*}衣浦岡崎線、矢作川堤防リフレッシュ道路を広域交流軸として位置づけます。



(都) 安城碧南線

都市間交流軸

(都) 西尾新川港線、(都) 安城碧南線、(都) 吉浜棚尾線、(都) 名古屋碧南線、(都) 碧南西尾線、(都) 大浜今川線、(都) 西端線について都市間交流軸として位置づけ、広域交流軸と合わせてこれらの都市軸を骨格とする都市構造の形成を図ります。

また、名鉄三河線についても都市間交流軸として、機能の維持・増進を図ります。

(2) 集約型の市街地の形成

中心核

碧南中央駅周辺は、西三河都市計画区域^(*)の都市拠点であり、市役所等の主要な公共施設や商業・業務施設が集積し、これまでも本市の中心的な役割を担ってきたことから、本市の「中心核」として位置づけます。中心核では、多様な都市機能の高度化を図るとともに、生活利便性が高い魅力ある市街地の形成を図ります。

サブ核

碧南駅、新川町駅、北新川駅の周辺は、中心核との連携を図りつつ、多様な交流を促進する「サブ核」として位置づけ、それぞれが持っている歴史・文化、福祉、居住等の地域特性を活かし、商業機能及び居住機能を持った生活利便性の高い集約型の市街地の形成を図ります。



碧南駅

* (都) は都市計画道路の略。

都市内交流軸

名鉄三河線に並行する（都）碧南高浜線、（都）米津碧南線の幹線道路を都市内交流軸と位置づけ、その整備推進により、安全な歩行空間の確保とともに、沿道における日常生活サービス施設^(*)等の立地を促進します。

(3) 良好な居住環境の形成

住宅ゾーン

(一般)

住宅を主体とする市街地を「住宅ゾーン」と位置づけ、農地や河川等の自然環境と調和しつつ、住工混在の解消や狭あい道路^(*)の拡幅等、地区の特性に応じた環境改善を図り、ゆとりある居住環境を形成します。

また、幹線道路沿道での日常生活サービス施設^(*)の立地の促進や、くるくるバス等による鉄道駅へのアクセスを確保する等により、生活利便性を確保するとともに、必要に応じて、伝統的産業や地場産業の保全・育成を図り、住宅地と工業地との共生を目指した環境整備を進めます。



住宅地（日進町）

(駅周辺居住エリア)

住宅ゾーンのうち、名鉄三河線の各駅周辺を「駅周辺居住エリア」と位置づけ、高齢化に対応し、徒歩でも安心して暮らせる市街地環境の形成を目指し、日常生活サービス施設^(*)の集積及び歩行空間の整備・改善等を図ります。その際、鉄道駅を主体とした環境にやさしい都市づくりを推進するため、公共施設や商業施設にユニバーサルデザイン^(*)を考慮した市街地の形成を図ります。

さらに、多世代交流の活発化を目指し、空き家や空き地等を活用しつつ、住宅・宅地の供給を図り、若者世代の定住化を促進します。

(地域拠点エリア)

住宅ゾーンのうち、地域コミュニティの中心となる主要な道路の周辺を「地域拠点エリア」と位置づけ、「駅周辺居住エリア」以外の「住宅ゾーン」における日常生活の利便性の向上のため、地域密着型の身近な日常生活サービス施設^(*)の集積を図ります。

集落ゾーン

既存の集落地は「集落ゾーン」と位置づけ、集落内道路の拡幅等の環境改善を図ります。

(4) 産業拠点の形成

生産・流通ゾーン

生産・流通ゾーンは、名豊道路や衣浦豊田道路等の広域交通網を活かした物流拠点や新たな産業基盤の整備を図るとともに、既存の生産機能の高度化による産業拠点の形成を図ります。また、産業環境の充実や住宅ゾーンからの工場の移転に対応するため、市北部に新たな工業拠点の整備を図ります。

農地ゾーン

市の北東部や南部に広がる農地等を「農地ゾーン」と位置づけ、市街地の外縁部の農地として保全します。

物流拠点

衣浦港はバルク貨物^(*)の物流拠点として、大型船への対応や分散している貨物の集約化、ふ頭再編による物流の効率化を図るため、港湾計画^(*)に基づき、衣浦ポートアイランドに新たな物流拠点の整備を促進します。



衣浦港

(5) 市の特性を活かした都市環境の形成

水と緑の拠点

県営油ヶ淵水辺公園、臨海部の緑地、碧南市臨海公園、明石公園及び水源公園等を水と緑の拠点と位置づけ、広域交流の拠点としての機能にも配慮しつつ、それぞれの持つ魅力の維持・増進を図ります。

水の環境軸

矢作川、蜷川、新川、高浜川、堀川、稗田川、長田川及び衣浦港を「水の環境軸」と位置づけ、良好な自然環境の保全・整備を図ります。



明石公園

緑の環境軸

旧海岸線等を「緑の環境軸」と位置づけ、水と緑の拠点を結ぶネットワーク軸等としての機能充実を図ります。

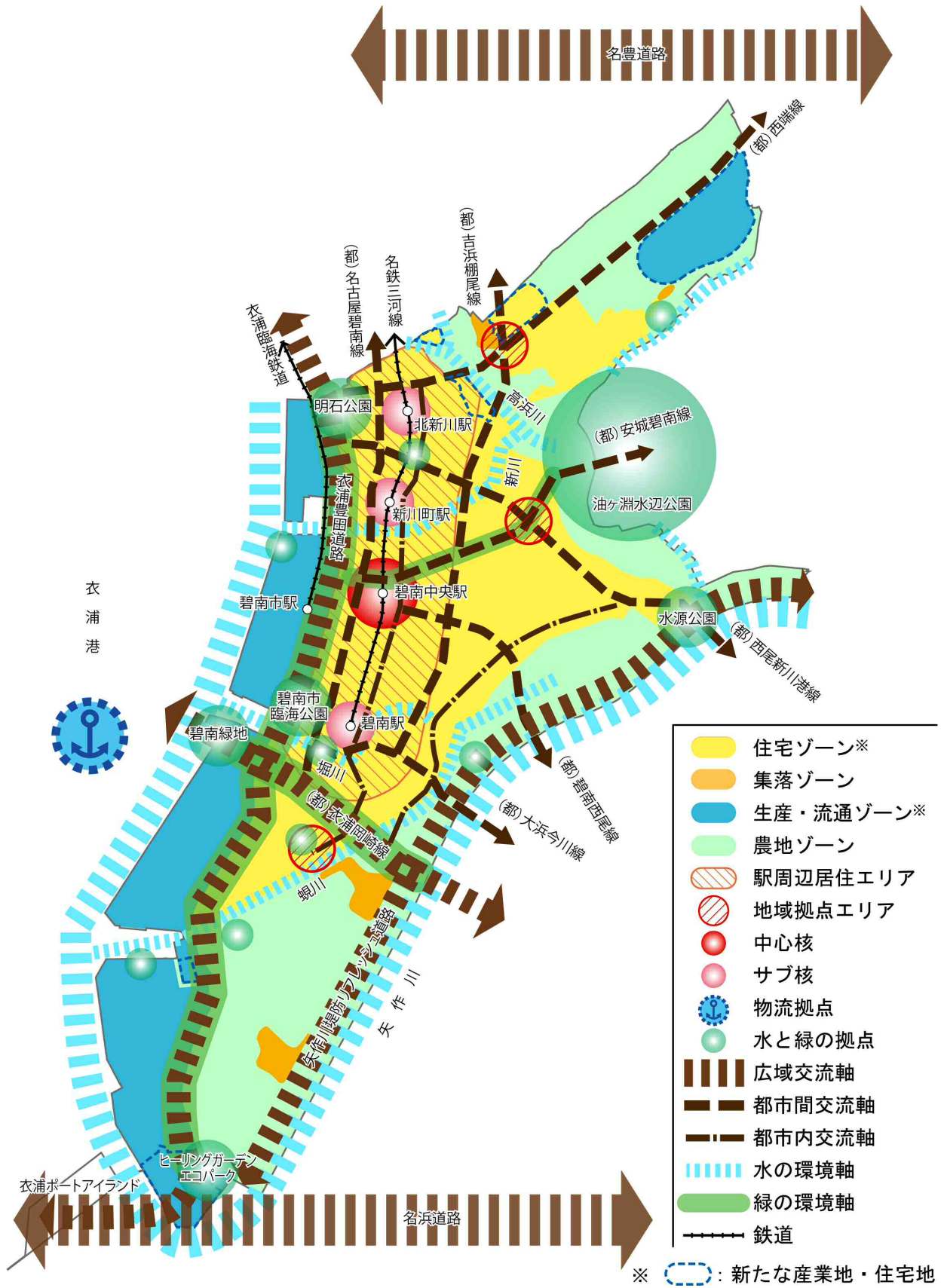


図3-4 将来都市構造図 (20~30年後)